

日本学術会議主催公開講演会

「環境学のフロンティア：脱温暖化社会へのシナリオ」

主 旨

アメリカ元副大統領アル・ゴア氏の『不都合な真実』の映画と本が話題になっています。この本の中で『サイエンス』誌編集長ドナルド・ケネディ氏の引用があります。

「科学において、この件に関する意見ほど皆の見解が一致することはまれである。」まさしく地球の温暖化だけは疑いのない事実だということです。

私たちの社会はいま 100 年というスケールで取り組まなければならない問題に直面しています。その第一が、地球温暖化への取り組みであり、脱温暖化社会へのシナリオとヴィジョンを示すことです。地球が数億年をかけて蓄積してきた化石燃料資源の有限性の認識、温室効果による環境の変化、代替エネルギーへの転換等は、必然的に人々の生活スタイルを変え、都市・地域構造そのものの転換が促されなければなりません。

この公開講演会では、第一部で複雑な地球環境問題とは何かについて、まず、わかりやすく、その本質を把握する視座について学びます。これを踏まえて第二部、環境対策の第一線で活躍する研究者、行政、企業、NP0 の皆さんに、自らの取り組みと展望について御報告いただきます。第三部では、これらの様ざまの問題解決へのアプローチのポテンシャルと制約について論議し、脱温暖化社会へのシナリオを描き「行動する環境学とは何か」を皆さんと共に考えてみたいと思います。

多様な議論が錯綜し、わかりにくくなっている地球温暖化問題を解きほぐし、果敢に取り組んでいるチャレンジャーからのメッセージを共有し、明日の地球を考えたいと思います。

日 時 平成19年3月28日（水）13：00～17：30

場 所 名古屋市^{こじょう}鯉城ホール（名古屋市中区栄1－23－13）

主 催 日本学術会議、名古屋市

プログラム

（13:00）開会・進行

石川幹子（慶應義塾大学環境情報学部教授、日本学術会議第三部会員）

（13:05～13:30）

第一部 問題提起

「名古屋市長からのメッセージ」

松原武久（名古屋市長）

「地球温暖化の予測と脱温暖化社会形成の必要性」

花木啓祐（東京大学工学系研究科教授、日本学術会議連携会員）

(13:30～15:50)

第二部 脱温暖化社会へのチャレンジ

「デジタルアースと地球温暖化問題—科学コミュニケーションのプラットフォーム」

福井弘道（慶應義塾大学総合政策学部教授、日本学術会議連携会員）

「森林による二酸化炭素の固定」

田中和博（京都府立大学大学院農学研究科教授、日本学術会議連携会員）

「農業からのゼロエミッション社会——エネルギーの地産地消」

牧 恒雄（東京農業大学地域環境科学部教授）

「エネルギー需要における原子力エネルギーの比重——その現状と将来」

田中 治邦（電気事業連合会原子力部長）

「地中貯留技術による二酸化炭素の削減」

村井重夫（(財)地球環境産業技術研究機構（RITE）主席研究員）

「地球温暖化対策と税財政のグリーン改革」

寺西俊一（一橋大学大学院経済学研究科教授、日本学術会議連携会員）

「自然と共生する流域圏と都市再生——水循環からのまちづくり」

吉川勝秀（日本大学理工学部社会交通工学科教授、日本学術会議連携会員）

(15:50～16:05)

休憩

(16:05～17:25)

第三部 パネルディスカッション「脱温暖化社会へのシナリオ」

コーディネーター：進士五十八（東京農業大学地域環境科学部教授、
日本学術会議第三部会員、環境学委員会委員長）

パネリスト：花木啓祐、福井弘道、田中和博、牧 恒雄、田中 治邦、村井重夫、
寺西俊一、吉川勝秀

(17:25～17:30)

閉会

今中忠行（京都大学大学院工学研究科教授、日本学術会議第三部会員）

[問い合わせ先]

日本学術会議事務局企画課公開講演会担当

〒106-8555東京都港区六本木7-22-34

TEL:03-3403-1906 FAX:03-3403-6224

E-mail: info@scj.go.jp

URL: <http://www.scj.go.jp>

環境学のフロンティア

脱温暖化社会へのシナリオ

主 旨

アメリカ元副大統領アル・ゴア氏の『不都合な真実』の映画と本が話題になっています。この本の中で『サイエンス』誌編集長ドナルド・ケネディ氏の引用があります。「科学において、この件に関する意見ほど皆の見解が一致することはまれである。」まさしく地球の温暖化だけは疑いのない事実だということです。

私たちの社会はいま 100 年というスケールで取り組まなければならない問題に直面しています。その第一が、地球温暖化への取り組みであり、脱温暖化社会へのシナリオとヴィジョンを示すことです。地球が数億年をかけて蓄積してきた化石燃料資源の有限性の認識、温室効果による環境の変化、代替エネルギーへの転換等は、必然的に人々の生活スタイルを変え、都市・地域構造そのものの転換が促されなければなりません。

この公開講演会では、第一部で複雑な地球環境問題とは何かについて、まず、わかりやすく、その本質を把握する視座について学びます。これを踏まえて第二部、環境対策の第一線で活躍する研究者、行政、企業、NPO の皆さんに、自らの取り組みと展望について御報告いただきます。第三部では、これらの様ざまの問題解決へのアプローチのポテンシャルと制約について論議し、脱温暖化社会へのシナリオを描き「行動する環境学とは何か」を皆さんと共に考えてみたいと思います。

多様な議論が錯綜し、わかりにくくなっている地球温暖化問題を解きほぐし、果敢に取り組んでいるチャレンジャーからのメッセージを共有し、明日の地球を考えたいと思います。

プログラム

開会・進行

石川幹子 慶應義塾大学環境情報学部教授、日本学術会議第三部会員

第一部 問題提起

名古屋市長からのメッセージ

松原武久 名古屋市市長

地球温暖化の予測と脱温暖化社会形成の必要性

花木啓祐 東京大学工学系研究科教授、日本学術会議連携会員

第二部 脱温暖化社会へのチャレンジ

デジタルアースと地球温暖化問題 ― 科学コミュニケーションのプラットフォーム

福井弘道 慶應義塾大学総合政策学部教授、日本学術会議連携会員

森林による二酸化炭素の固定

田中和博 京都府立大学大学院農学研究科教授、日本学術会議連携会員

農業からのゼロエミッション社会 ― エネルギーの地産地消

牧 恒雄 東京農業大学地域環境科学部教授

エネルギー需要における原子力エネルギーの比重 ― その現状と将来

田中治邦 電気事業連合会原子力部長

地中貯留技術による二酸化炭素の削減

村井重夫 (財)地球環境産業技術研究機構(RITE) 主席研究員

地球温暖化対策と税財政のグリーン改革

寺西俊一 一橋大学大学院経済学研究科教授、日本学術会議連携会員

自然と共生する流域圏と都市再生 ― 水循環からのまちづくり

吉川勝秀 日本大学理工学部社会交通工学科教授、日本学術会議連携会員

休憩

第三部 パネルディスカッション：脱温暖化社会へのシナリオ

コーディネーター 進士 五十八 東京農業大学地域環境科学部教授

日本学術会議第三部会員、環境学委員会委員長

パネリスト 花木啓祐、福井弘道、田中和博、牧 恒雄、田中治邦、村井重夫、寺西俊一、吉川勝秀

閉会

今中忠行 京都大学大学院工学研究科教授、日本学術会議第三部会員

定員 700人 入場無料

お問合せ：日本学術会議事務局企画課公開講演会担当

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

TEL: 03-3403-1906 / FAX: 03-3403-6224

E-mail: info@scj.go.jp / URL: http://www.scj.go.jp

会 場：鯉城ホール（中区栄 1-23-13 伏見ライフプラザ5階）

【会場へのアクセス】

地下鉄 伏見駅 6番出口より南へ6分

地下鉄 大須観音駅 4番出口より北へ6分



2007
3/28 (水)
13:00-17:30

こじょう
鯉城ホール

伏見ライフプラザ5階